

2023年3月1日

罰によらない子育てプログラム「ポジティブ・ディシプリン」の実施事業 プログラムの効果測定結果報告書

一般社団法人ポジティブ・ディシプリン コミュニティ

■ 報告書の趣旨

養育者における体罰防止を支援する目的として開発された「ポジティブ・ディシプリン®」プログラムが、体罰、ひいては、虐待の一次予防に有効である可能性を示すため、効果測定結果を報告する。プログラム介入に効果はあるのか、どんな効果をもたらすのか示唆を得たいと考える。

■ 方法

期間：2020年4月～2022年3月（8標準プログラム）

対象：本助成事業において実施された標準プログラムに参加した養育者63名

方法：プログラム開始前、および終了時の2時点における自記式質問紙調査を行った

※回答データに基づく測定結果表記は、本プログラムの開発およびデータセンターを管理している非営利団体「Positive Discipline in Everyday Life」に委託して実施された。考察は弊団体にて記述する。

■ 効果測定結果概要

回答者：

97%が母親で、30歳以上が87%であった。最終学歴は約76%が短期大学または大学を卒業し、そのうち修士号または博士号保持者が16%であったことから、高学歴の傾向があった。

プログラムへの満足度：

プログラム全体について、「おおむね満足」もしくは「とても満足」の回答が100%であり、満足度が高かった。18時間というプログラムの長さについても、もっと「短い方が良い」は0%であり、回答者の満足度がうかがわれる。

身体的な罰に対する態度の変化：

賛成もしくは賛成の傾向にあった者は減り、95%の回答者がプログラム介入後に身体的な罰へ否定的態度を示した。

本プログラムの効果についての考え：

「身体的な罰の使用を減らすのに役立つだろう」「私の怒りのコントロールに役立つだろう」「子どもとのコミュニケーションをよりよくするのに役立つだろう」いずれに対しても、97%以上が肯定的な評価を示した。

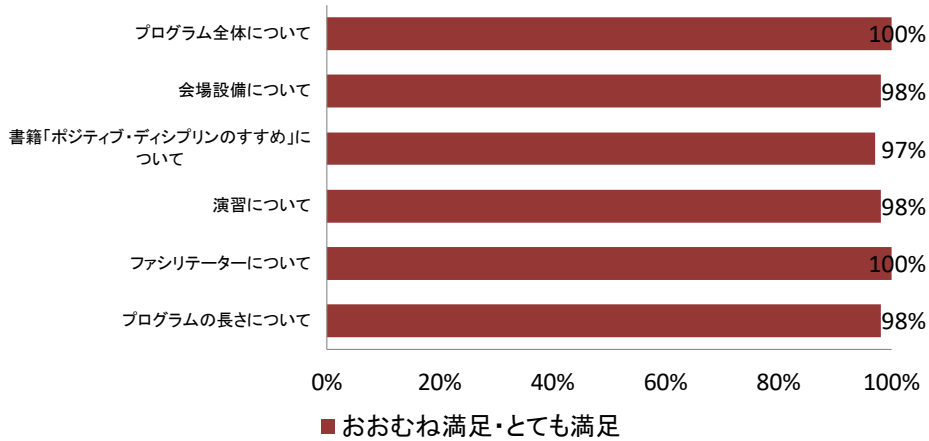
以上より、本プログラムは

養育者が満足するものであり、かつ体罰防止の効果をもたらす可能性が示唆される。

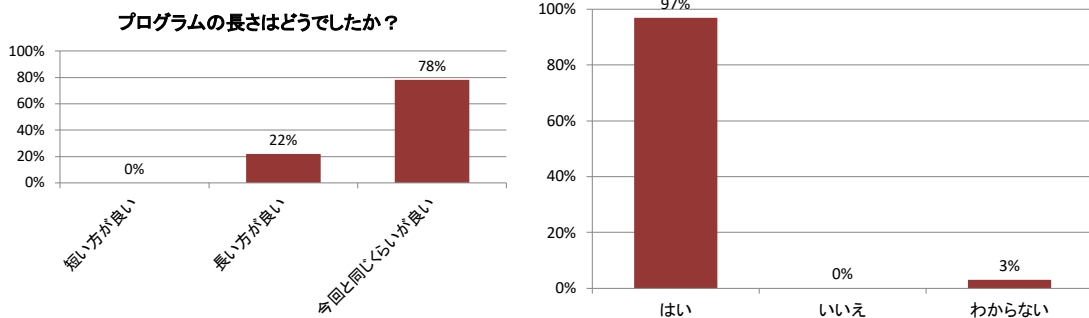
調査詳細

プログラムへの満足度

プログラムの満足度はどのくらいですか？



あなたはこのプログラムを他の養育者へ奨めたいと思いますか？



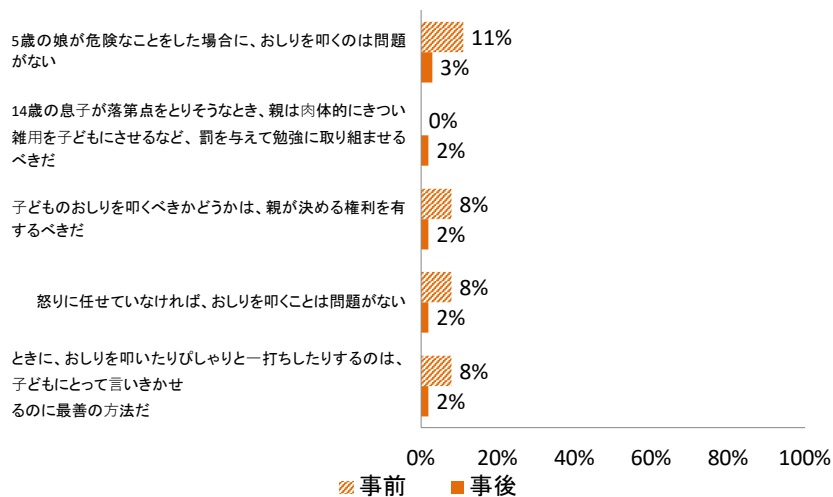
本プログラムは、プログラム開発およびデータセンターを管理している非営利団体「Positive Discipline in Everyday Life」により見直され、標準化され、構造的なプログラムマニュアルが提供されている。プログラムのファシリテーターは、養成研修（5日間）を修了し、トレーナーの伴走によるプログラム実施もしくは規定時間実地研修を修了したのちにファシリテーションを行う。プログラムおよびファシリテーターへの満足度の高さは、本プログラムの実施を支える養成制度やプログラム開発力によると考えられる。

身体的な罰に関する養育者の態度における変化

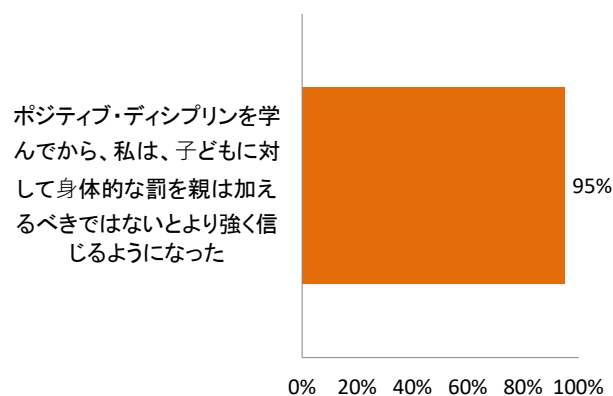
体罰への容認態度と体罰使用の関連が示されていることから、体罰の容認態度をなくすことは重要なことである。

プログラム介入前から、体罰に対する賛意は少ない。しかし、日本では体罰への積極的な支持は少なく、消極的な支持が根強いため、体罰に対する賛意がなくなることは大きな意味を持つと考えられる。したがって、「身体的な罰を親は加えるべきではないとより強く信じるようになった」という体罰不要への 95%の賛意は、プログラムの大きな効果と言えるであろう。

どちらかという賛成・おおむね賛成・強く賛成と回答した割合



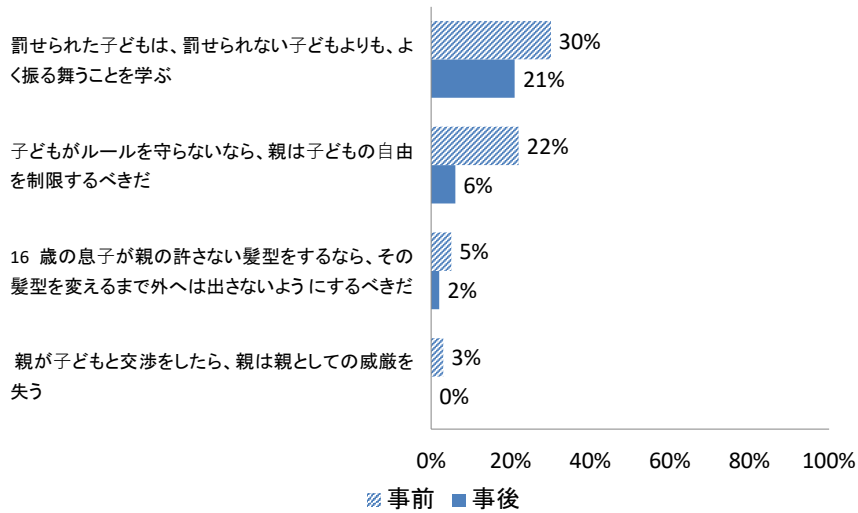
どちらかという賛成・おおむね賛成・強く賛成と回答した割合



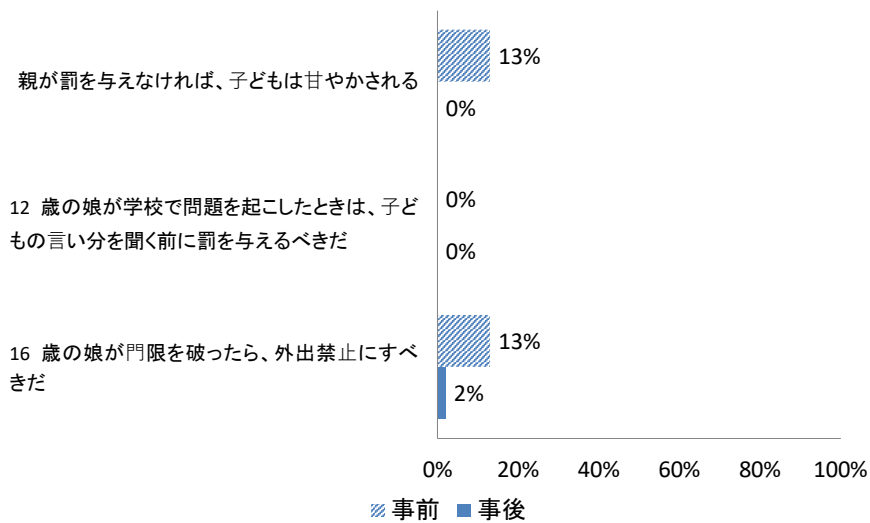
罰に関する養育者の態度における変化

ポジティブ・ディシプリン®は、養育者が子どものころや体を傷つける罰を用いた子育てから少しずつ距離を置き、子どもの健やかな発達と学びを促すような子育てに移行していくことを目的としている。つまり、体罰ではない別の罰を用いてしつけをするように促してはならず、子ども理解に基づいて子どもに教える（前向きな子育て）アプローチを提案している。本質問項目において、罰に対する回答者の態度を測定しているが、罰全般に対してもプログラム後に賛成意見が低減しており、懲罰的な関わりではない前向きな子育てへ回答者の意識が変容していると推測される。

どちらかという賛成・おおむね賛成・強く賛成と回答した割合



どちらかという賛成・おおむね賛成・強く賛成と回答した割合

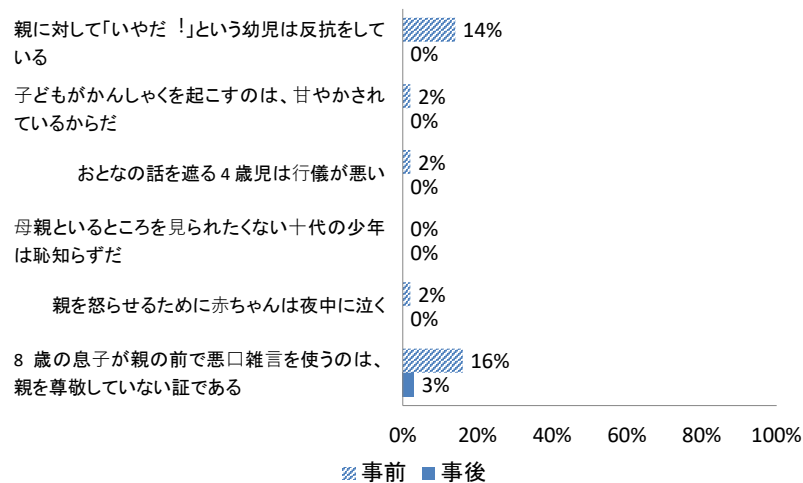


よくある親子間の衝突について養育者の考えにおける変化

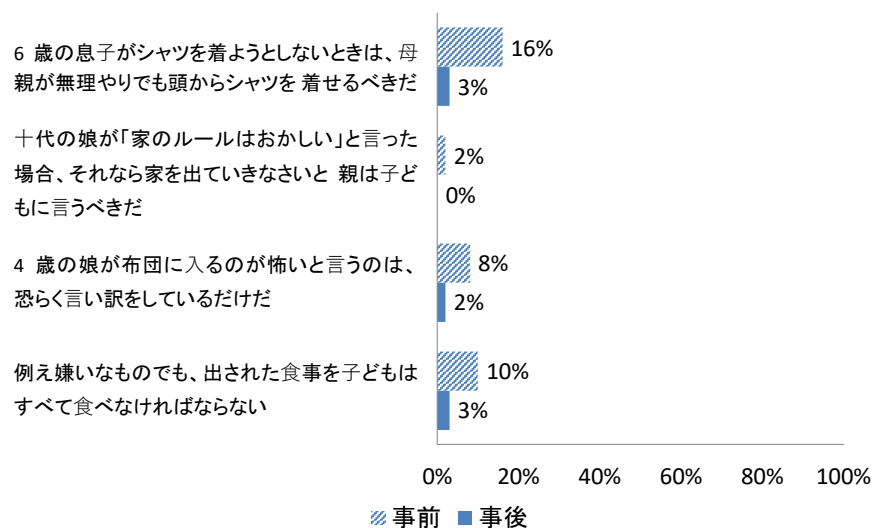
子どもの親和的欲求の表れである泣きや後追い、発達段階において普遍的な行動であるかんしゃくなどを、「わがまま」「意地悪」など否定的に養育者が受け止めることが、子どもへの懲罰的な態度や行動に関連することが示されている。多くの親支援プログラムにおいて、養育者の認知に生じる歪みを解消することが行なわれている。本プログラムにおいても、よくある親子間の衝突について、養育者が“子どもが悪い”と誤解をしないように、子どもの発達規範を時間をかけてガイダンスしている。

本質問項目において、子どもの行動を、子ども発達の程度に相応に、回答者が理解をする変化が見られたと考えられる。

どちらかという賛成・おおむね賛成・強く賛成と回答した割合



どちらかという賛成・おおむね賛成・強く賛成と回答した割合



ポジティブ・ディシプリン・プログラムの効果に関する養育者の考え

本プログラムは、3つの柱～①子どもの健やかな発達に関する研究結果、②効果的な育児に関する研究結果、③子どもの権利の原則～に基づいて開発されたプログラムである。

質問項目より、回答者は

- ①子どもの健やかな発達について理解が進み
- ②罰を与えるのではなく、子どもを理解し、親子のコミュニケーションを通して子どもに接する育児ができ
- ③自身の怒りをマネジメントして、子どもとより強い関係を築くことに役立つだろうと感じていた。言い換えると

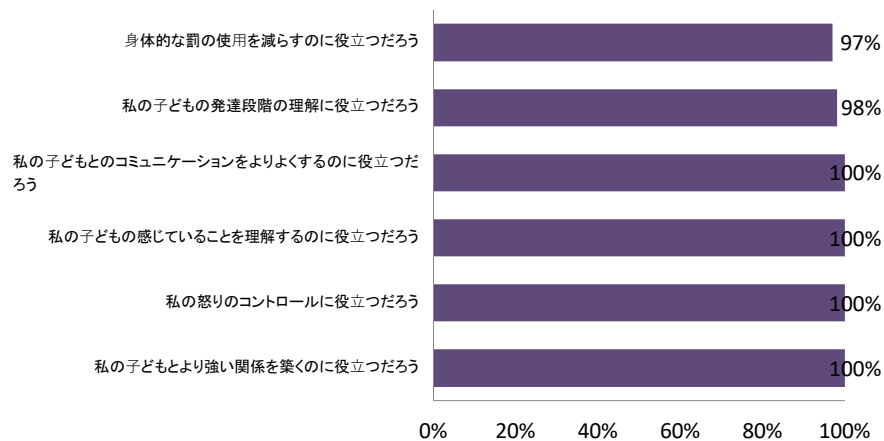
に役立つだろうと感じていた。言い換えると

- ①子どもの健やかな発達を理解した上で
- ②効果的な育児の方法を用いて
- ③子どもを尊重する子育てに自信を持てるようになったと考えることができる。

ポジティブ・ディシプリン®は、子どもに体罰を用い不仅需要、子どもの育つ権利や、意見表明し自分に関わることに参加する権利、つまり子どもの権利を尊重する育て方を促進する可能性が示唆されると考えられる。

どちらかという賛成・おおむね賛成・強く賛成と回答した割合

ポジティブ・ディシプリンを学んだことは、私にとって...



どちらかという賛成・おおむね賛成・強く賛成と回答した割合

